

理科自由研究審査会が行われました

夏休みに浜松市内の児童・生徒が取り組んだ理科自由研究の審査会が浜松科学館「みらいーら」で開催されました。理科部に所属する校長先生、教頭先生、長年理科部を支えて下さっている先生方、本年度の運営委員が審査を行いました。

応募作品は、理科の学習が始まる前段階の小学校1・2年生のものや小学校のときから継続して研究に取り組んでいる中学校3年生のものまでと実に幅広い作品が集まりました。市内全域から小学校6514点、中学校5571点（共同研究作品を含む）の12085点の作品がありました。ブロックや部会の審査会を通過した応募作品を審査し、本年度は、金賞43点（小学校23点、中学校20点）、銀賞62点（小学校33点、中学校29点）、銅賞（小学校74点、中学校36点）に決まりました。

コロナ禍以降、作品の応募点数は減少傾向にあるものの、子供らしい視点からアプローチしたユニークな作品や何度も試行錯誤を繰り返し丁寧にその過程をまとめた作品、前年度の研究から生じた疑問を解決しようと取り組んだ作品などが応募されています。それらの作品はどれも理科の学習で大切にされている問題解決の過程を大切にしている作品でした。

夏休みのように1つの自然現象にじっくりと向き合うことのできる時間が取れるときに、さまざまな切り口から研究に取り組み、一つの作品にまとめた児童・生徒の熱意に感心するとともに、一人でも多くの児童・生徒が理科好きになるように、専門性と指導力を主体的に磨く理科教員でありたいと改めて思いました。

